

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2274202437 | | |
| 法人名 | 有限会社 山秀 | | |
| 事業所名 | マミー・ケア・サポート グループホーム | ユニット名 | 2階 |
| 所在地 | 静岡県静岡市葵区新伝馬1丁目10-50 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年1月25日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年5月30日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202437-00&PrefCd=22&VersionCd= |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------------|
| 評価機関名 | セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部 |
| 所在地 | 静岡県静岡市清水区迎山町4-1 |
| 訪問調査日 | 平成25年3月9日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『ゆっくり、のんびり、生きがいを持ち共に生きよう』という理念の基に、入所者様の人間性を尊重して、介護に努めています。
入所者様同士、また職員との絆を、より深める為にみんなで楽しめるイベントなど話題づくりを心掛けています。
毎週全員参加型レクリエーションを企画し、また地域での音楽会などの催しにご家族も積極的に参加していただき、とても楽しみにして頂いています。四季の移り変わりに合わせて、四季折々の花や提示物などをかざる事で、季節を身近に感じる事の出来る暖かい空間を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立時からの理念「ゆっくりのんびり、生きがいを持ち共に生きよう」は、毎日の口腔体操の折にも唱和されており職員にも利用者にも浸透している。居間は明るく広々としており、利用者は新聞を読んだりテレビを見たり、一人ひとりのペースで自由に過ごしており、ゆったりと落ちついて暮らしている。また職員が色々企画し、家族も含めて音楽や踊りの催しに出掛けたり、食事会・カラオケ・お花見など、車で遠出する機会等も多く利用者のお楽しみとなっている。家族アンケートからは、事業所や職員への感謝のことも多く信頼もあり、今のサービスについて理解し満足していることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 『ゆっくり、のんびり、生きがいを持ち、共に生きよう』と理念にもとづき、ゆったりとした環境の中、理念の共有と実践に向けた努力が実施されている。 | 理念は口腔体操の時にも唱和されており、職員に意識づいている。利用者も職員も、ゆっくりのんびりと自分の特技を活かしあい共に生活している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 現在も町内会に加入し、地域の行事や老人会ボランティアの受け入れにも積極的である。また近隣の中学、高校の福祉体験や介護実習も受け入れており、地域と密着した交流が実施されている。 | 町内会に加入している。地域の行事には参加したり、散歩の折には挨拶をしたり、交流するように努めている。ボランティアも受け入れられている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 職員と共に利用者が日々、近所を散歩する折に地域の方と挨拶を交わすなど徐々に利用者地域をつなぐように努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ご家族代表、施設長、職員で2ヶ月に1回の会議を開催している。 | 運営推進会議は、家族代表や施設長・職員で開催されてきており、市担当者・地域包括支援センター、町内会長、民生委員など、外部のメンバーはこれまで加わっていない。 | 運営推進会議は地域の理解と支援を得る為の貴重な機会である。地域に密着した外部のメンバーに加わっていただき、そこでの意見をサービス向上に活かされるよう期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市からの指導のもと、必要に応じ連絡を取りながら質の向上そして協力関係を築くように取り組んでいる。 | 必要に応じて市担当者とは連絡をとり、協力関係を築くようにしている。地域包括支援センター職員との交流はない。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人会の職員が「身体拘束」についての研修会に参加し常に理解を深めている。又、利用者の生命を守るため、玄関等の施錠についてはご家族からの安心の声を頂いている。 | 「身体拘束」についての研修会に職員が参加しており、「身体拘束0宣言」のポスターも掲示している。しかし、玄関は日常的に施錠されている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人会の職員が権利擁護についての研修会に参加し、必要とする人の見極めができる目と感覚を養う事。支援方法を活用できるようになっている。地域包括の支援を仰ぎながらの実例を参考にし、伝達研修が行われている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人会の職員が虐待防止法の研修会に参加し、必要とする人の見極めが出来る目と感覚を養う事。支援方法を活用できることを目標としている。地域包括の支援を仰ぎながらの実例を参考にし、伝達研修が行われる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約、重要事項を説明、看取りの方針などに関してはゆとりのある説明時間の確保を図り、納得、十分な理解が得られるまでの説明をしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 発意の弱い利用者からは、利用者の示す様子・しぐさ・態度などから判断し、それを運営に反映させているが、外部者へ表せる機会は設けられていない。 | 事業所から家族に利用者の写真や様子を毎月同封しており、家族の訪問時には、できるだけ意見を聴いたり話し合うように努めている。外部評価の家族アンケートへの協力もお願いしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者が運営に関する職員の意見、提案を書面で集約・把握・検討する仕組みはあるが、現在、運営に関する意見は寄せられていない。 | 全体のミーティングは、月1度開催されている。また職員はそれぞれに担当委員会に属し、防災やレクリエーションなどの企画検討をしており運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の向上心、やりがいを持てるよう、様々な研修会に出席できるよう心掛けている。また、希望休みは必ず取り入れている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎日のミーティングの反省から代表者も管理者や職員を把握しており、法人内外の研修を受ける機会も確保している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者はネットワーク作り、スキルアップとサービスの向上を目指して、職員が同業者との交換研修を持つ機会を設定し実施している。定期的に行うよう計画している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人が困っている事、不安な事、要望等によく耳を傾けながら本人の不安を出来る限り除くために日々努力している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族が困っている事、不安な事、要望等によく耳を傾けながら信頼関係をつくる努力をしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人とご家族がまず必要としている支援をより聞き取り、マッサージなど他のサービス対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者への支援を継続する中で、入所時には見られなかった感情の表現や、会話が生まれ利用者からのねぎらいの言葉かけを受ける。自ら作業にも参加され、職員が元気づけられる場面が多い。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月、ご家族へのお便りの発送や毎週火曜日にはご家族も参加してのお楽しみ会、季節ごとの行事等を計画し、ご家族と共に本人を支援するための関係づくりに努力している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人のなじみの場所や人間関係を継続するためには、ご家族の支援が欠かせないため、ご家族へ可能な限りご家族との外出を働きかけている。 | 利用者たちの馴染みの場所や、懐かしい場所などを考慮しながら、車で気軽に出掛けている。また、家族とも出掛けたり、知り合いの訪問などもあり関係継続に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入所期間が長くなってくると利用者同士の間人間関係が形成され相互理解が進み、自然発生的に役割も出来つつある。同時にトラブルの発生した時には利用者の話しによく耳を傾け本人を尊重しつつ解決の方向に向け日々努力している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約を終了されて利用者又は家族との関係をたちきらない取り組みはあるが現在までに相談の問い合わせはない。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 理念を基に、入所者は、本人と家族に対し面談と書面にて意向の聞き取りに努めている。入所後は、利用者の様子をよく見守りながらご家族の目から見た意向との相違点があればよく聞き把握するよう努めている。 | 日々の声掛けや日常の様子や表情から本人の希望を把握するように努めている。家族からは、面会時に、意見や情報を得るようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時に、本人・ご家族から出来るだけ多くの情報をもらうよう努めている。また、日常生活中に本人から知り得た内容も情報として職員間でも共有できるように、申し送り・介護日誌等に記録し本人との対話が豊かになるように活かしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 身体状況は、毎朝のバイタルチェックを記録し生活上の安心、不安についてはご本人への細やかな声掛けにより把握するよう努めている。又、本人が訴えられない方についても行動の変化はもたさず職員間での情報の共有に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人の日々の生活、身体状況に合わせ、課題とケアについて、本人・家族・医師との話し合い、職員間での意見交換も行いながら、創意工夫とアイデアを反映した企設計画の作成にあたっている。 | 利用者個人の担当は決めず、職員のミーティングや日々のチェックシート等により、職員で情報を共有している。介護計画は半年に1度見直しをし、面会時や郵送で家族へ確認をとっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 計画に基づく気づきや工夫を介護日誌や申し送りに記録し、職員間での情報の共有が出来よう努め、柔軟に対応できる職場の雰囲気、環境を整え、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | デイサービス、ヘルパー事業所を併設しているため、デイサービス利用者やそのボランティアとの交流イベントへの参加、要望があれば、介護保険外での個別支援も受けやすい環境が整えられている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 本人の希望に合わせ、デイサービスの訪問するボランティアとの交流に参加、福祉事業や公民館主催の音楽会などへの参加を支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の受診を希望する利用者には、その支援を行い、週1回定期訪問診療により利用者の健康管理を図っている。オーナーが歯科医のため、口腔内の管理に即応ができています。 | 週1回、協力医の往診があり、定期的に衛生士が口腔内の検診を行っている。通院には、職員や家族が付き添い、急変時には、家族が要望する病院に連絡することになっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力医療看護職員と常に連絡をとりながら支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院した場合は、医療機関と利用者家族との連絡を密に行い面会の機会を得て、利用者の安心につながる支援をしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に十分な時間をもち確認している。 | 利用者の重度化した場合における対応に関わる指針がある。入居時に、家族に重度化や看取りについて話し合い、確認書をとっている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的な研修を行っているが、まだ全職員に行き届いていない。新規採用者がいるため。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害防災管理委員を設置した。 定期的に利用者・職員が共に地域消防隊の立会い指導のもと、防災訓練を行っている。 | 起震車をよび、近隣の保育園にも声を掛けて揺れの体験をした。ADEの研修会も行っている。ホーム独自の防災訓練は火事と地震を防災訓練を行っているが、近隣住民の協力を得るまでには至っていない。 | 地域の人もAEDの設置場所や使い方を知ってもらい、近隣の協力を得た防災訓練、車イスの利用者の避難や夜間を想定した防災訓練が行われることを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシーに関する情報は、スタッフ以外には開ける事が出来ない書庫に保管している。利用者への声掛けは一人ひとりの人格を尊重するよう日頃より努めている。 | 利用者の誇りやプライバシーを損なわない声掛けを心掛けている。調査当日の居室の入室の際も、職員は利用者丁寧に説明をして、本人の了解を得てから行っていた。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の希望は、やりとりを細やかに行う事で表しやすい環境作りに努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人一人のペースを大切に、その人らしい暮らしが作れるようになってきた。そうした対応も介護記録に記入し、申し送りで伝達できるようになっている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者の希望により一緒にショッピングに出かけたり、ご家族の協力又は事業者側で支援している。散髪などはボランティア(資格有)により支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は、時々梅干しつくり、干し柿作り、ちらし寿司作りなどをスタッフも一緒に行っている。食事時間は、スタッフも一緒にテーブルにて会話しながらゆったりと召し上がっていただくよう努めている。 | 職員手作りの食事だけでなく、同じ施設内のデイサービスの食事や、最近では体重の増加や栄養面を考えて、配送サービスを利用し始めている。今後の食事については、色々試してみても決めていく予定である。 | 毎日の食事やおやつ作り等、利用者も準備や片付けを手伝い、職員と一緒に食事を楽しむことを期待したい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の献立メニューは栄養バランスを考慮し、担当スタッフが立てている。水分補給も申し送り等で行い、必要量を摂取出来るよう努めている。 配色サービスを一部利用している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアは、毎食後声掛けと介助により行っている。異常があれば、歯科医が往診・受診出来る仕組みが出来ている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人の排泄時間をチェックし、パターン習慣を活かし気持ちよく排泄できるよう支援している。排泄時刻の記入をすすめスタッフも確認できる仕組みになっている。 | 排泄のチェック表を参考に、時間で声掛けをしたり、その時の様子から、一人ひとりに合った声掛けをし、排泄の誘導を行っている。おむつに頼らない自立に向けた排泄を心掛けている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の原因に沿い飲食物や運動により予防と解消の支援を行っている。服薬の際は、医師の指示に従い身体の負担とならないよう配慮して行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人一人の希望やタイミングを大切にし利用者の希望に沿って気持ちよく入浴していたりよう努めている。 | 週3回、午前中に入浴を行っている。入浴を拒む利用者には、声掛けや、タイミングを換えて再度声掛けをする等、工夫して入浴を促している。入浴は同性が介護している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活習慣や体調に応じ休息して安眠できるよう支援を行っている。夜、眠れない方には、医師からの指示連携を取りながらケアに努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人一人の薬の目的や副作用、用法や用量については処方箋によって理解しており、服薬の支援と症状の変化を見逃さず、医師の指示を仰ぐ体制が出来ている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 施設での生活が定着する中で、一人一人の役割楽しみごとが見えてきました。個別で支援する事と利用者同士で共有しあう場作りを平行して作る努力を行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人一人の心境と体調を考慮しながら外出の機会を日常的に作るよう努めている。家族や地域の人々とも協力しながら支援している。 | 毎日散歩に出掛け、ユニットごとに交代で車で公園に出掛けたりしている。コンサートやピアノ演奏を聴きに行ったり、利用者や職員・家族が車で一緒に遠方の娯楽施設へ出掛ける等、頻繁に外出支援を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 外出する際や散歩時に利用者が買物を出る機会を設け、買物の楽しさが味わえる支援をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | レクリエーションで利用者一人一人がちぎり絵で作った手作りハガキを利用し、大切な人への交流、手紙を出すという楽しみを支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関は事務所と隣接し、来訪者と直接顔を合わせることができ、利用者も覗いて会話を楽しまれている。廊下は広く明るいので壁に季節ごとの催し物の写真を貼り、利用者は見て楽しまれている。 | 通路が広く、共有の居間も広くて明るい。壁には、切り絵やちぎり絵等、利用者の作品や、季節の行事等の写真が飾られている。大きなクマのぬいぐるみが置かれていたり、中央の壁には、当日出勤の職員の名前と写真が掲示されていた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フローア横の和室を気に入られている方、TVがよく見える位置が良い方、テーブルにて会話がはずむ女性の方々、居室で合唱の練習をされる方、一人一人の居場所作りを今後も工夫していきたい。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室で亡き家族(つれあい)の写真を置かれている方、好きな猫の写真を飾る方、ぬいぐるみや人形を枕元に置かれる方。少しの工夫で本人が過ごしやすい環境づくりに努めている。 | 使い慣れたタンスやテレビを置き、家族との写真や子どもが描いた絵、手作りの作品を飾っている等、その人らしい居室となっている。また、居室のドアには、各々違うデザインのスチンドグラスがはめ込まれていた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各居室のドアへの名前プレートやトイレ前の表示を行い、利用者に分かり易くしている。又、手すりを廊下全体につけ安全に過ごせる環境作りにも努め、声掛け見守りにて自立支援をしている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2274202437 | | |
| 法人名 | 有限会社 山秀 | | |
| 事業所名 | マミー・ケア・サポート グループホーム | ユニット名 | 3階 |
| 所在地 | 静岡県静岡市葵区新伝馬1丁目10-50 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年1月25日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年5月30日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhvu_detail_2012_022_kani=true&JirvosvoCd=2274202437-00&PrefCd=22&VersionCd= |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------------|
| 評価機関名 | セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部 |
| 所在地 | 静岡県静岡市清水区迎山町4-1 |
| 訪問調査日 | 平成25年3月9日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『ゆっくり、のんびり、生きがいを持ち共に生きよう』という理念の基に、入所者様の人間性を尊重して、介護に努めています。
入所者様同士、また職員との絆を、より深める為にみんなで楽しめるイベントなど話題づくりを心掛けています。
毎週全員参加型レクリエーションを企画し、また地域での音楽会などの催しにご家族も積極的に参加していただき、とても楽しみにして頂いています。四季の移り変わりに合わせて、四季折々の花や提示物などをかざる事で、季節を身近に感じる事の出来る暖かい空間を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 『ゆっくり、のんびり、生きがいを持ち、共に生きよう』と理念にもとづき、ゆったりとした環境の中、理念の共有と実践に向けた努力が実施されている。 | ※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 現在も町内会に加入し、地域の行事や老人会ボランティアの受け入れにも積極的である。また近隣の中学、高校の福祉体験や介護実習も受け入れており、地域と密着した交流が実施されている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 職員と共に利用者が日々、近所を散歩する折に地域の方と挨拶を交わすなど徐々に利用者地域をつなぐように努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | ご家族代表、施設長、職員で2ヶ月に1回の会議を開催している。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市からの指導のもと、必要に応じ連絡を取りながら質の向上そして協力関係を築くように取り組んでいる。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人会の職員が「身体拘束」についての研修会に参加し常に理解を深めている。又、利用者の生命を守るため、玄関等の施錠についてはご家族からの安心の声を頂いている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人会の職員が権利擁護についての研修会に参加し、必要とする人の見極めができる目と感覚を養う事。支援方法を活用できるようになっている。地域包括の支援を仰ぎながらの実例を参考にし、伝達研修が行われている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人会の職員が虐待防止法の研修会に参加し、必要とする人の見極めが出来る目と感覚を養う事。支援方法を活用できることを目標としている。地域包括の支援を仰ぎながらの実例を参考にし、伝達研修が行われる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約、重要事項を説明、看取りの方針などに関してはゆとりのある説明時間の確保を図り、納得、十分な理解が得られるまでの説明をしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 発意の弱い利用者からは、利用者の示す様子・しぐさ・態度などから判断し、それを運営に反映させているが、外部者へ表せる機会は設けられていない。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者が運営に関する職員の意見、提案を書面で集約・把握・検討する仕組みはあるが、現在、運営に関する意見は寄せられていない。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の向上心、やりがいを持てるよう、様々な研修会に出席できるよう心掛けている。また、希望休みは必ず取り入れている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎日のミーティングの反省から代表者も管理者や職員を把握しており、法人内外の研修を受ける機会も確保している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者はネットワーク作り、スキルアップとサービスの向上を目指して、職員が同業者との交換研修を持つ機会を設定し実施している。定期的に行うよう計画している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人が困っている事、不安な事、要望等によく耳を傾けながら本人の不安を出来る限り除くために日々努力している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族が困っている事、不安な事、要望等によく耳を傾けながら信頼関係をつくる努力をしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人とご家族がまず必要としている支援をより聞き取り、マッサージなど他のサービス対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者への支援を継続する中で、入所時には見られなかった感情の表現や、会話が生まれ利用者からのねぎらいの言葉かけを受ける。自ら作業にも参加され、職員が元気づけられる場面が多い。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月、ご家族へのお便りの発送や毎週火曜日にはご家族も参加してのお楽しみ会、季節ごとの行事等を計画し、ご家族と共に本人を支援するための関係づくりに努力している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人のなじみの場所や人間関係を継続するためには、ご家族の支援が欠かせないため、ご家族へ可能な限りご家族との外出を働きかけている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入所期間が長くなってくると利用者同士の人間関係が形成され相互理解が進み、自然発生的に役割も出来つつある。同時にトラブルの発生した時には利用者の話しによく耳を傾け本人を尊重しつつ解決の方向に向け日々努力している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約を終了されて利用者又は家族との関係をたちきらない取り組みはあるが現在までに相談の問い合わせはない。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 理念を基に、入所者は、本人と家族に対し面談と書面にて意向の聞き取りに努めている。入所後は、利用者の様子をよく見守りながらご家族の目から見た意向との相違点があればよく聞き把握するよう努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時に、本人・ご家族から出来るだけ多くの情報をもらうよう努めている。また、日常生活中に本人から知り得た内容も情報として職員間でも共有できるように、申し送り・介護日誌等に記録し本人との対話が豊かになるように活かしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 身体状況は、毎朝のバイタルチェックを記録し生活上の安心、不安についてはご本人への細やかな声掛けにより把握するよう努めている。又、本人が訴えられない方についても行動の変化はもたらさず職員間での情報の共有に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人の日々の生活、身体状況に合わせ、課題とケアについて、本人・家族・医師との話し合い、職員間での意見交換も行いながら、創意工夫とアイデアを反映した企設計画の作成にあたっている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 計画に基づく気づきや工夫を介護日誌や申し送りに記録し、職員間での情報の共有が出来よう努め、柔軟に対応できる職場の雰囲気、環境を整え、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | デイサービス、ヘルパー事業所を併設しているため、デイサービス利用者やそのボランティアとの交流イベントへの参加、要望があれば、介護保険外での個別支援も受けやすい環境が整えられている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 本人の希望に合わせ、デイサービスの訪問するボランティアとの交流に参加、福祉事業や公民館主催の音楽会などへの参加を支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の受診を希望する利用者には、その支援を行い、週1回定期訪問診療により利用者の健康管理を図っている。オーナーが歯科医のため、口腔内の管理に即対応ができています。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力医療看護職員と常に連絡をとりながら支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院した場合は、医療機関と利用者家族との連絡を密に行い面会の機会を得て、利用者の安心につながる支援をしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に十分な時間をもち確認している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的な研修を行っているが、まだ全職員に行き届いていない。新規採用者がいるため。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害防災管理委員を設置した。 定期的に利用者・職員が共に地域消防隊の立会い指導のもと、防災訓練を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシーに関する情報は、スタッフ以外は開ける事が出来ない書庫に保管している。利用者への声掛けは一人ひとりの人格を尊重するよう日頃より努めている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の希望は、やりとりを細やかに行う事で表しやすい環境作りに努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人一人のペースを大切に、その人らしい暮らしが作れるようになってきた。そうした対応も介護記録に記入し、申し送りで伝達できるようになっている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者の希望により一緒にショッピングに出かけたり、ご家族の協力又は事業者側で支援している。散髪などはボランティア(資格有)により支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は、時々梅干しつくり、干し柿作り、ちらし寿司作りなどをスタッフも一緒に行っている。食事時間は、スタッフも一緒にテーブルにて会話しながらゆったりと召し上がっていただくよう努めている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の献立メニューは栄養バランスを考慮し、担当スタッフが立てている。水分補給も申し送り等で行い、必要量を摂取出来るよう努めている。 配色サービスを一部利用している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアは、毎食後声掛けと介助により行っている。異常があれば、歯科医が往診・受診出来る仕組みが出来ている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人の排泄時間をチェックし、パターン習慣を活かし気持ちよく排泄できるよう支援している。排泄時刻の記入をすすめスタッフも確認できる仕組みになっている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の原因に沿い飲食物や運動により予防と解消の支援を行っている。服薬の際は、医師の指示に従い身体の負担とならないよう配慮して行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人一人の希望やタイミングを大切にし利用者の希望に沿って気持ちよく入浴していただくよう努めている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活習慣や体調に応じ休息して安眠できるよう支援を行っている。夜、眠れない方には、医師からの指示連携を取りながらケアに努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人一人の薬の目的や副作用、用法や用量については処方箋によって理解しており、服薬の支援と症状の変化を見逃さず、医師の指示を仰ぐ体制が出来ている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 施設での生活が定着する中で、一人一人の役割楽しみごとが見えてきました。個別で支援する事と利用者同士で共有しあう場作りを平行して作る努力を行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人一人の心境と体調を考慮しながら外出の機会を日常的に作るよう努めている。家族や地域の人々と協力しながら支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 外出する際や散歩時に利用者が買物を出る機会を設け、買物の楽しさが味わえる支援をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | レクリエーションで利用者一人一人がちぎり絵で作った手作りハガキを利用し、大切な人への交流、手紙を出すという楽しみを支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関は事務所と隣接し、来訪者と直接顔を合わせることができ、利用者も覗いて会話を楽しまれている。廊下は広く明るいので壁に季節ごとの催し物の写真を貼り、利用者は見て楽しまれている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロア横の和室を気に入られている方、TVがよく見える位置が良い方、テーブルにて会話がはずむ女性の方々、居室で合唱の練習をされる方、一人一人の居場所作りを今後も工夫していきたい。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室で亡き家族(つれあい)の写真を置かれている方、好きな猫の写真を飾る方、ぬいぐるみや人形を枕元に置かれる方。少しの工夫で本人が過ごしやすい環境づくりに努めている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各居室のドアへの名前プレートやトイレ前の表示を行い、利用者に分かり易くしている。又、手すりを廊下全体につけ安全に過ごせる環境作りにも努め、声掛け見守りにて自立支援をしている。 | | |